

道央支店より新年ご挨拶

北海道統括支店 道央支店長 小西 均

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、弊社商品をご愛顧賜り心より厚くお礼申しあげます。

昨年の道内各地は天候不順に泣かされ、大切な一番牧草やトウモロコシ等、自給飼料収量の不足、栄養価や繊維消化率低下等が懸念されております。飼料給与前に品質や飼料給与メニューの再点検を実施されることを是非ともお勧めいたします。

ご存じのとおり、海外乳製品動向は、EUの生乳クォータ制度廃止や中国やロシア向け需要低下にオセアニアも反応し需給量や価格が大混乱しております。また、国内はTPP大筋合意後、係る関連政策大綱が公表されましたが、畜産環境は生産資材費が高止まりのまま厳しさを増しており、特に道産初任牛の今春相場は65万円に迫るとの情報もあり、生乳増産の大きな障壁になりそうです。一刻も早い具体的な経営安定策の施行を望んで止みません。酪農家戸数が減少する一方、皆様方の多大な生乳増産ご努力により道内生乳生産量は前年比101.5% (27年4-10月累計 農水省統計より) と回復傾向にございます。

このような転換期にこそ弊社のやるべきことは、弊社社是といたすところの「技術と誠意で農業奉公」に戻り、国内飼料基盤に立脚した「土づくり、草づくり、牛づくり」と存じ、皆様

との信頼関係を構築し、ひいては地域の「絆」を深める事に貢献していくことが一番大切なことと考えております。

その具体的な取組が北海道標茶町、標茶町農業協同組合と共同設立いたしました農業生産法人「TACSしべちゃ」です。年間2,500トンの生乳生産量を目標に、輸入飼料に頼らない草地型酪農を目指し、昨年4月から搾乳を始めました。

話は変わりますが、煉瓦造の塔型サイロ壁は、四角い煉瓦が積重なって円形サイロが出来ております。目地（セメント）が煉瓦同士を繋ぎ、角度調整により美弧を描いた構造になっております。皆で繋がり合えば、新発想が生まれ頑丈なサイロとなるという先人達の知恵に感謝し、目地＝「地域の絆」の大切さを実感いたします。

また、作溝型簡易更新機による自給飼料増産と品質向上への取り組みは、好評につき今年も継続して拡大して参ります。

道央支店各営業所では、今年も農業、酪農、畜産に関する数多くの商品と技術を取り揃え、所員一同、皆様のご用命をお待ちいたしておりますので、なにとぞよろしくお願い申しあげます。

一年間の農作業の無事と皆様のご健勝をお祈り申しあげます。

道東支店より新年ご挨拶

北海道統括支店 道東支店長 五十嵐 誠

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、格段なるご高配とご愛顧を賜りまして心より厚くお礼申し上げます。

今年も引き続き変わらぬお引き立てを賜ります様お願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、酪農、畜産情勢は、TPP大筋合意があり、秋の大荒れ天候により飼料作物の被害も発生致しました。先行きの不安感が有る中で平成27年度の生乳生産が前年実績を上回る状況は、日本の乳製品は海外に負けないという生産者の方々の強いメッセージと感じ、大変心強く受け止めております。

農業生産者の減少、少子高齢化において乳製品・畜産製品の消費動向、輸入穀物飼料の高止まり、そしてTPPの影響など不安な事は幾多に挙げられますが、これからの更なる酪農基盤の強化に向けて、自給飼料への期待は大きく、各地で植生改善への取り組みが益々活発に行われ、その成果を生産者の方々も実感されています。

北海道の道東地区は日本全国においても類まれなる自給飼料の面積を有した地域であります。その生産者の方々の自給飼料の改善により、購入飼料のコスト低減につながるものと思っておりますので、「えさ」と「タネ」において良い商品と情報をお届けする事で少しでもお役に立てるよう道東地域4営業所（釧路・帯広・別海・北見）において、本年も活動して参りますので、皆様からのご用命を心よりお待ちしております。

○サイレージ用乳酸菌「サイマスター」ご紹介

特性が違う二つの乳酸菌の組み合わせで今までにない乳酸発酵促進効果であり、特に高水分牧草サイレージにおいては平成26年度北海道指導参考事項に認定され、現場で高評価を頂いております。自給飼料サイレージの品質低下を防ぎ、嗜好性アップにより最大限に乳生産に結びつける為にも、是非ご利用頂きます様よろしくお願い申し上げます。

○飼料作物種子ご紹介

デントコーン種子 ニューデント85日【ビビアン】
平成26年から本格販売となり、比較的冷涼な道東地区では好評頂いております。耐倒伏性、すす紋病抵抗性及び根腐病抵抗性に優れた多収品種です。

デントコーン種子 ニューデント90日【クロノス】
平成27年から本格販売の耐倒伏性・収量性に優れた品集です。大柄な草姿ですが着穂高は低く、すす紋病抵抗性にも優れています。

○穀物情勢

昨年11月米国農務省の需給報告では事前予想を上回る単収となり、穀物相場は軟調に推移している中、為替相場の影響を受けやすい状況となっています。(平成27年度畜種平均配合飼料価格は、第1四半期値下げ、第2四半期値下げ、第3四半期据え置き) 今後は海外の経済事情にも注視する必要があります。また世界の気象状況を見るとエルニーニョ現象が続いており穀物出来高と相場への影響が大変懸念されます。